

# こんにちは原のり子です

都政へのご意見・ご要望をお寄せください

2024年春号

発行：日本共産党東京都議会議員団 新宿区西新宿2-8-1 TEL 03(5320)7270

原のり子事務所 東京都東久留米市幸町3-6-3 TEL・FAX 042(476)2544



## 都議会本会議 障害者の雇用を取り上げる 生き方を保障する働き方こそ 一人ひとりの存在そのものに価値がある

都議会本会議で一般質問



都議会本会議の一般質問（昨年9月）で障害者の雇用を取り上げました。一人ひとりの状況や特性に応じた柔軟な働き方が可能になるように、都の支援を強化しよう求めました。質問の最後に、「根本的には、働けるか働けないかという物差しではなく、一人ひとりの存在そのものに価値があり、だれもが「生きていていい」と思える社会にしていくことが必要だ」と強調しました。

### Aさんの新たな挑戦

東久留米市で、地域の連携のなかで、超短時間の障害者雇用がすすめられています。統合失調症のAさんは30代、東久留米市にある機械メーカーの工場です。週3日、1日3時間働いています。仕事は、機械部品の不要な突起物を取り除くバリ取り

### 地域連携の力

Aさんの新たな挑戦を支えたのは、商工会、企業、就労支援相談室、生活訓練事業所などの連携の力、そして生活訓練事業所の存在です。

### 「成果をあげている」

中小企業の人材確保に向けた商工会などへの支援について都は

### 「成果をあげている」

という作業。「私がバリ取りした部品が組み立てられている光景をみたとき、すごい仕事をしているんだとわかる」と話してくれました。

### 一人ひとりに応じて

「障害者雇用は、一人ひとりに応じた働き方、生き方を保障するという観点が大事です。一般就労もある、超短時間の雇用もあれば、福祉的就労もある。どれも大切にされ、選

### 「成果をあげている」

択できることが大事です」。私の指摘に対して小池知事は、「共生

社会の実現が大切」とのべ、福祉的就労への支援などさまざまに取り組んでいることになりました。

### 余暇への支援も大切

就労したあとも大切です。仕事のあとに立ち寄ってほっとできる、仲間と過ごせる余暇支援の場は、孤立せず、日々の生活を豊かにするために必要です。

### 補助率を引き上げて

都の補助（包括補助）を活用して余暇支援を実施している自治体は15自治体。私は「補助率を引き上げて活用を広げるべきではないか」と訴えました。都は「包括補助の活用を働きかけていく」と答えました。

## 市販薬の過剰摂取 (オーバードーズ = OD) つらさは寄り添い相談できる体制を

昨年秋、私は6年間務めてきた総務委員から厚生委員に変わりました。市販薬の過剰摂取(オーバードーズ＝OD)、依存症などは、いまだに自己責任論にたった見方が強く、子どもたちや若い人たちが、生きづらい社会のなかでどれだけ苦しんでいるかに十分光が当てられていないことに胸が痛みます。さっそく厚生委員会できろくみました。

### 10代・20代に広がる

10代・20代の若い世代を中心に市販薬の過剰摂取が広がっています。薬物依存の10代の65%が市販薬だという調査もあります。薬局やドラッグストアで風邪薬や咳止めなどを買い、大量にのんでしまう。相談できず、「つらい気持ちをやわらげたい」などの理由から、過剰摂取をくり返しながら生きる。健康を損ない、命を落とす場合もあります。

私は、「根本的に大事になってくるのは、過剰摂取をするに至っている一人ひとりの背景、苦しさをどう

見るかだ」と強調しました。いりーフレットを都が作成 放すきっかけになった。も安心して相談できるように するよう提案しました。 しこの薬剤師さんに、市販薬ODに 大切な薬剤師の役割 薬ODを頭から非難されたら、なる場合もあるし、同時に、 市販薬ODをしていた若い 手放そうと思えなかったか回復も可能だということも 女性から話をうかがい、薬 もしれない」。あわせて、相メッセージとして伝えてい 剤師さんの役割の大事さを 談するときに、「周りに聞くことが大事」と指摘。悩 知り、質問で紹介しました。 えないか、とても不安だっ

んでいる人に寄り添い回復 「薬局で信頼できる薬剤師 た」と。安心して話せる環境を整備するための支援がビジョンが見え、安心し さんと出会い、相談できる 必要です。て相談しようと思える新し ようになったことでODを手

## 依存症対策 悩んでいる人に届く施策を

薬物、アルコールなど物質系のし、多摩地域の場合は地域が広い依存。ネット、買い物、摂食障害、ため、利用者に偏りが生まれてお自傷など、非物質系(行為)の依り、支所が必要と求めましたが、存があります。依存するな、強く「保健所・市町村と連携」との答えきろ、というメッセージではな 弁でした。併せて、オンラインのく、人を頼っていいんだという 公開講座、LINE相談の実施もメッセージを。本人や家族が安心 提案しました。

して相談できる環境を整えていく 文書質問で求めた支援が 一歩前進 ことがとても重要だと思えます。 現在、都は、摂食障害治療支援

**精神保健福祉センターの支所を** の拠点病院の選定や相談事業の推進 精神保健福祉センターは、依存 進を協議しています。また、摂食 症などの相談拠点となっている施 障害の正しい理解を広げるリーフ 設で、都内3カ所(世田谷区、台 レットも作成されたことがわかり 東区、多摩市)にあります。しかしました。

# 本会議一般質問

## 欠かせない！命を守る水泳指導 学校プールをなくさないで



東京都内や全

国で学校プールの廃止がすすめられています。水泳の授業は民間スポーツクラブにバスで行き、インストラクターの指導により実施するなどの状況が生まれています。移動に時間がかかり、夏休み前に水泳指導を受けない学校もあります。本当にこれでいいのか。私は「廃止ではなく充実を」と訴えました。

### 学校プールの目的は？

学校での水泳指導は、呼吸法を身に付け、命を守るようにすることが大事な目的です。清瀬市・東久留米市では、子どもたちがたくさん川で遊んでいます。東日本大震災の津波で流された中学生が、水泳の授業で習ったことを思い出して、息をいっぱい肺にためてめぐり、がれきのないところで顔を出して助かりました。命を守る水泳指導は欠かせません。

### スイミングスクールとは

#### 目的が違う

私の質問に対して都の教育長は、学習指導要領にも、呼吸、長く泳げるようにする、安全確保のための背浮きなどが書かれていること

を答弁。学校の水泳指導は、

民間のスイミングスクールの競泳を中心とした指導とは目的が違うことを明確にできました。特別支援学校でも、楽しく水に親しむと同時に、水のなかでの基本的な動きを身につけることが大事だと位置づけられていることも確認されました。

### プール改築に都の補助を

日本共産党都議団が実施した都内区市町村に対する調査では、一部実施を含め学校プールの統合や廃止をすすめているのは11自治体、検討中は20自治体です。老朽化がすすみ修繕のための財政負担が重い、維持管理経費・人手の負担が重いなどが主な理由です。プールを改築・新築する場合の補

助は国が3分の1。都の支管理などの教員の負担を軽減は、なし。教育長は「国減しながら、水泳授業の場に補助率の引き上げを要請 地域スポーツの場として充している」と答えました。実を。また、災害時の役割学校プールは廃止せず、も見直されるべきです。

## ケア労働者の処遇改善 都が一步前進の提案

運動が  
後押し

高齢者や障害者を支えているケア労働者の方々に、都として処遇改善（居住支援特別手当事業）を実施することが提案されました。勤続5年目までの職員は月2万円、6年目以上の職員は月1万円です。昨年12月、共産党都議団の代表質問に対し、都として処遇改善を実施する答弁はありませんでした。また、厚生委員会に「ケア労働者の賃上げ及び人員増等を求める意見書の提出に関する陳情」が提出され審査しましたが、残念ながら、共産党都議団の賛成のみで不採択になっていました。

そこで、共産党都議団として厚生委員会に、保育士等も含めすべてのケア労働者の処遇改善を求める意見書を提案し、各党派によびかけましたが、調整がつかず提出にはいたりませんでした。

しかし、ねばり強い運動が大きな後押しとなり、東京都を動かしました。一人ひとりの命と生き方を支えるケア労働者の処遇改善へ、引き続きとりくみます。

# 東京ビーフ・東京牛乳 都市農業振興へ緊急対策求める



清瀬市と東久留米市には、東京ブランドの肉と牛乳の生産者がいます。「東京牛乳」を生産する畜産農家は清瀬市に6軒。「東京ビーフ」を生産する畜産農家は東久留米市に1軒。私は、畜産農家、東京都酪農業協同組合、東京ビーフ生産流通協議会などからお話をうかがって、本会議一般質問に臨みました。肥料や燃料代などへの緊急支援、東京ブランドのPRなどを都に求めました。

「東京ビーフ」を生産する東久留米市の榎本牧場を視察し、生産者の榎本さん（右）からお話をうかがう原のり子（中央）、清水とし子都議

## これからが正念場

畜産農家や関係団体の人たちから、「猛暑をなんとかのりこえたものの、飼料代も電気代もコロナ前の倍になった」「事業を継続できるかどうか、これからが正念場。緊急対策を実施してほしい」という切実な声をお聞きました。

## 猛暑と物価高騰

東京都は昨年度、飼料価格高騰に伴う畜産経営緊急支援事業を実施しました。全国的にみても牛1頭5万400円を給付するなど、充実した内容

で、「とても助かった」という声が寄せられています。「猛暑と物価高騰で都内農業は深刻な打撃を受けていま

す。肥料や燃料代などへの支援が必要です」と再度の支援を求めましたが、正面からの答弁はありませんでした。畜産農家が厳しいなかでがんばっていることを、都はどう考えているのか、と思ってしまういました。

## 支援とPRを

都内の畜産農家は大きく減少し、乳牛は43戸、肉牛は23戸です。「東京ビーフ」生産者は8軒。厳しいなか、畜産農家の方々が農業経営を続けています。私は、「この努力にこたえ、知事先頭に、もっ



東京ビーフ

と力を入れてPRすべき」と質問。都は「ホームページでの紹介等を行っている」と答弁しました。

## 都市農業振興条例

私は、「畜産に限らず、東京の農業者の努力を次世代へつないでいくためにも、都市農業振興条例を策定することが必要です」と訴えました。都は、都市農業振興条例には言及しませんでした。東京農業振興プランによって、東京農業の振興を図っていく」と答えました。引き続き都市農業振興に向けて力を尽くします。

## 原のり子プロフィール

都議会議員2期目。都議会厚生委員会所属。東京都社会福祉審議会委員。東久留米市議5期18年。1965年、東京生まれ。

都議会での質問や議論、都政にかかわる問題をブログ「こんにちは原のり子です」で詳しく紹介しています。都政へのご意見、ご要望をお寄せください。右のQRコードをご利用ください。

